

アクティブ シニア

②

■「草むしりのプロ」

「草むしりのプロ」として働くシニアがいる。5月半ば、群馬県内の民家の庭で、庭や敷石の間から伸びた雑草を草刈り機や鎌で刈り取っていたのは、平均年齢66歳の男たち。最後は土の消毒も行っ。



丁寧に作業する「草むしり」の社員たち。人に喜ばれる実感も働く理由だ(群馬県高崎市で)

社会とつながる生きがい

経験と意欲 企業も動く

前橋市の専門会社「草むしり」は2009年に設立された。社員は現在8人。定年退職後の会社員、大工など前職は様々で、ハローワークで紹介されたという人もいる。

社員の岡本富男さん(71)は運送会社を経営していた。なお働く理由は「年金もどうなるかわからないし、生活のため」だという。だが、そればかりでもなさそうだ。「庭がすっきりする」という結果も、お客さんの喜ぶ顔も見える。直接お礼を言われ、誰かのために働いている実感もある。こんな仕事はそうない。

この会社の代表を務める宮本成人さん(52)は、「シニアの仲間たちの力に支えられています。彼らには健康な限り、定年や年齢制限はなく働いてもらう。皆もそのつもりでしょね」と話していた。この「草むしり」には、全国の中老年からの問い合わせも多いという。

の顔も日焼けで真っ黒。「知り合いにも若返ったと言われるよ」と笑う。

■家電開発の技術者

65歳定年制が議論される中、厚生労働省が40歳以上に聞いた2016年の調査では、65歳をさらに超えて働きたいと答えた人は全体の66%だった。理由は「経済上」が最も多く、68%。不安定な世の中や将来不安も、働きたいシニアの意欲を強めているようだ。

ただ、複数回答で「生きがい・社会参加のため」という人も約4割いた。岡本さんのように社会とつながっていたいという人も多い。定年後は家庭にこもるといふ人は、一層少数派になりそうだ。

人手不足の企業も黙っていない。生活用品のアイリスオーヤマは、家電分野の企画開発を担う中高年技術者を積極採用する。昨今の家電不況で中途退社

する人材に目を付けた。

雨堤正信さん(61)もその一人。13年に大手家電メーカーの管理職から転職した。大阪市内の新しい職場でも、これまで培った冷蔵庫やエアコンの知識を發揮。今春、新発売のクーラーは、雨堤さんらの開発チームが手掛けた。

「年を取ったらすることは何もないと思っていた。でも必要とされる場がまだあった」と雨堤さん。老いても若きも一緒に職場で、昔のワクワク感が戻ってきたという。

経験豊富で若者とは違う場面で活躍できるシニアに、熱い視線を送る企業が増えてきた。口



「新人もいれば、ベテランも。人材の『るつぽ』の中で働けるのは面白い」と雨堤さん(大阪市中央区で)